

2

2011年はPaaSの年になるとの見解を発表 ～PaaS市場の主な課題を検証するスペシャル・レポートを公開～

- 2011年3月、ガートナーは、2011年は業界をリードする全てのエンタープライズ・ソフトウェア・ベンダーおよび大手クラウド・ベンダーが新しい「サービスとしてのプラットフォーム (PaaS)」製品をリリースし、PaaSの年になるとの見解を発表した。同社は、2011年、これらの大手ベンダー各社は、新しいPaaSサービスや大幅に拡張したPaaSサービス、またクラウドに対応したアプリケーション・インフラストラクチャ製品を市場へ送り出すことが見込まれると語っている。

ガートナーの最上級アナリストでバイス プレジデントのイェフィム・ナティス氏は「2011年末までに、PaaSおよび主なPaaSセグメントのリーダーシップをめぐる戦いはソフトウェア業界を席卷することになるでしょう。専門的なPaaS製品のPaaSスイートへの統合に向けた動きも目立つようになり、買収や社内開発をベースにした新しいベンダーの市場参入も進みます。ユーザーはイノベーションとハイプの波の中で、一貫したメッセージや標準、明確な勝者を見分けることが難しくなるでしょう」と語っている。

ガートナーでは、今日市場に出回っているPaaS製品には数十の特化したタイプがあるが、これらの多様な特化型PaaS製品は、今後3年間でいくつかのメジャーなアプリケーション・インフラストラクチャ・サービススイートに統合され、また長期的には包括的なフルスケールのPaaS製品が登場すると予測している。加えて、大部分の中規模企業・大企業でPaaSの採用が進んでも、今後5年間はクラウドコンピューティングへの大規模な移行につながる

ことはなく、自社運用型アプリケーション・インフラストラクチャの利用パターンをハイブリッド型のコンピューティングモデルへと拡張した環境になるだろうと言及している。

「クラウドコンピューティングの時代は始まったばかりであり、その流行の(利用)パターン、標準、クラウドソフトウェア・エンジニアリングのベストプラクティスもまだ確立されていません。新しいソフトウェアベンダーにとって、これはソフトウェアソリューション市場をリードするプレゼンスを築くチャンスです。一方、既にプレゼンスを確立している既存のソフトウェアベンダーにとっては、現在優勢な自社運用型コンピューティング市場で築き上げてきたプレゼンスを損なうことなく、そのリーダーシップを新たな分野へ広げていかなければならないという意味で、技術面とビジネス面の両方において大きな課題となります。」(ナティス氏)

現在は断片的で不透明なクラウドアプリケーション・インフラストラクチャも、今後5年間で技術面とビジネス面のイノベーションによって急成長していく。大手ベンダーは社

内開発、パートナー関係の構築、他社の買収などを通じて成長する一方で、小規模ベンダーはパートナー関係の構築と特化の方向へ進むことで成長していく。また、SaaS等のビジネスアプリケーション・サービスと高度なPaaS等のプラットフォームサービスの成熟度が十分受け入れられるレベルにまで高まり、革新的で新しい魅力的な技術/ビジネスモデル機能を提供できるようになることで、ユーザーはクラウドコンピューティングの方向へ進んでいくと予測している。

「現在、市場には断片的、あるいは特化された多くのPaaS製品が出回っていますが、これからの2年間でこれらの製品は、幅広く流行しているPaaSの利用パターンに合わせたサービス・スイートに統合されていくでしょう。このようにターゲットが絞られ、あらかじめ統合されているスイートは、(対象となる)単一のプロジェクトをサポートするという点で、多くのミドルウェア機能を集めた、手間のかかる従来の自社運用型環境よりも魅力的です。」(ナティス氏)